



春夏秋冬⑦ 水かけ祭り

# 水をかけ合う ラオスの 暑い新年

文・写真 堀内孝

1963年宮城県出身。写真通信社を経てフリーの写真家。マダガスカルを中心としたインド洋世界と東南アジアをフィールドに取材を続ける。

東南アジアの国々で毎年4

月に行われる「水かけ祭り」。

ラオスでは、4月中旬の3日

間、全土で祝う「ピーマイラ

オ」(ラオス正月)がそれに当

たる。中でも多彩な行事に彩

られ、華やかなのが古都ルー

アンパーンだ。

最も盛り上がるのは2日目

と3日目に行われるパレード。

先頭に立つのは真っ赤なお面

がユニークな「プーニユー・

ニャーニユー」だ。大地を創

造した原初の夫婦だという。

その後に、僧侶や少数民族、

着飾った少女たちが続く。そ

してパレードの最後に、いよ

いよ山車に乗ったミス・ルー

アンパーンが登場する。その

姿を一目見ようと、通りは身

動きがとれないほどの人で埋

め尽くされ、あちこちから豪

快な水しぶきが舞う。

3日目の翌日には、この町

独特の行事が行われる。王国

時代から町の守護仏だった

「パバーン仏」が王宮博物館

から出され、ワット・マイ※で

開帳されるのである。篤い上

座部仏教徒であるこの町の

人々はパバーン仏に聖水をそ

そぎ、ろうそくと花を供え、

熱心に祈りを捧げる。

新しい年の幸せと健康を願

い、盛大に水をかけ合ったこ

のラオス正月が終わると、ル

アンパーンは一年で最も暑

い季節を迎える。



※1796年建立の寺院「ワット・マイ・スワナ・ブーン・ラーム」の通称。